

プラスチックから紙へ④

以前のINFORMATIONでもプラスチックゴミ問題について、日本の企業や海外での動きについてみてきましたが、今回は大手コンビニの取り組みについてご紹介しましょう。

アイスコーヒー用の容器やストローを、プラスチックから紙製に変更する動きは既にみられています。セブンイレブン・ジャパンでは牛丼や親子丼などのチルド弁当4品目の容器をプラスチックから紙製に変更することを発表しました。

これでチルド弁当容器の約半分が紙製へ変更となり、2020年初夏より首都圏の店舗で切替えを始め、2020年度内に全国の店舗へ拡大させる計画で、2021年2月までに全国の約2万1000店で紙容器への変更を完了させるそうです。

フタの部分は引き続きプラスチック製となりますが、紙製容器に変更となっても、そのまま電子レンジで温めることができます。

この取り組みにより、2021年2月までで合計約800トンのプラスチックの削減が見込まれます。

またセブン&アイは、プライベートブランド（PB）を中心とした自社製品の容器も徐々に環境負荷の低い素材に切り替える方針で、2030年には提供する容器の約50%を環境に配慮した素材にし、プラスチック製のレジ袋も全廃させる方針であることを発表しました。

2020年7月1日からはレジ袋も全て有料化となり、政府も環境問題となっているプラスチックの利用状況について原料を扱う化学メーカーや、製品に多く使用している食品メーカーなどの企業に情報開示を求める新たなガイドラインを作成する方針です。

2019年5月、環境省では「プラスチック資源循環戦略」をまとめ、2030年までに使い捨てプラスチック廃棄を25%削減するという目標を設定しました。

こうした「脱プラスチック」という時代の流れを受けて、プラスチックの使用を見直す企業は今後も増えていき、私達の生活にも大きな変化をもたらします。この分野では環境負荷の低い素材として紙の優位性が更に認識されていくことでしょう。